

Title	新型コロナウイルス感染症に関する情報の信頼度の国際比較：試行的な分析
Author(s)	神田, 由美子; 伊神, 正貫
Citation	年次学術大会講演要旨集, 36: 478-481
Issue Date	2021-10-30
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/17992
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

新型コロナウイルス感染症に関する情報の信頼度の国際比較：試行的な分析

神田由美子, 伊神正貴 (文科省・NISTEP)

1. はじめに¹

1.1. 調査の目的

現代社会において、人々は従来型のメディアのみならずオンラインメディア、ソーシャル・メディア等のより幅広いメディアから情報を得ており、その結果、玉石混合な情報を受け取る可能性も出てきたと考えられる。

本調査研究では、主要国における人々の情報に対する意識、また、新型コロナウイルス感染症に関する情報に対する情報源の信頼度及び使用度を把握し、そこから得られる示唆を考察する。

1.2. 調査に使用したデータ

本要旨の項目2~4の分析は、オックスフォード大学ロイタージャーナリズム研究所 (Reuters Institute for the Study of Journalism) から発行された“Digital News Report 2020”²の詳細データの提供を受け実施した。日本の分析(項目5で紹介)は、総務省が実施した『「フェイクニュース」に関するアンケート』³の詳細データの提供を受け実施した。

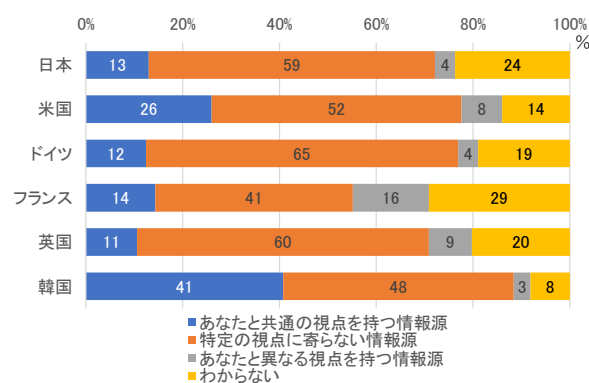
2. ニュースが持つ視点に対する嗜好

私たちが利用できるさまざまな種類のメディアの一部では視聴者を惹き付けるため、独自の視点を持ったニュースを提供する場合がある。そこで、回答者がどのタイプの視点を持った情報源を好むのかを見た(図表1)。

ほとんどの国で「特定の視点に寄らない情報源」を好む傾向にあるが、韓国、米国では「あなたと共

通の視点を持つ情報源」を好む者が一定数おり、特に韓国で顕著である。

図表1 どの視点を持つ情報源を好むのか



注:
「あなたが利用できるさまざまな種類のニュースの中でどの情報源を好みますか」に対する返答。

資料:
Reuters Institute for the Study of Journalism, “Digital News Report 2020”

3. オンラインニュースへの懸念

オンラインニュースが本物か偽物か心配しているかという質問に対して、「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した者、つまり、オンラインニュースは偽物かもしれないと懸念している者の割合は、多くの国で半数を超えており、特に米国では約7割を占める。日本は約6割である。これに対して、ドイツでは「どちらともいえない」、「そう思わない」が最も多く、他国とは異なる傾向を見せている。なお、日本は、「どちらともいえない」の割合がドイツの次に多い(図表2)。

¹ 本要旨は、研究・イノベーション学会第36回年次学術大会における発表のために、科学技術・学術政策研究所から公表した次の報告書におけるコラムを深掘りしたものである。

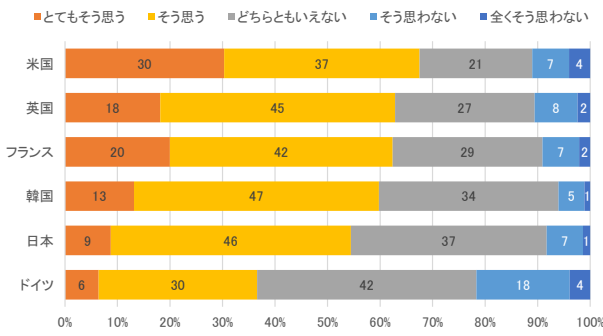
科学技術指標 2021 コラム: 流言蜚語(りゅうげんひご), 文部科学省科学技術・学術政策研究所 調査資料-311.

² この調査は、さまざまな国でニュースがどのように利用されているかを理解するために、オンラインアンケートを実施している。2020年版では40の国・地域で約8万人に対して、2020年1月末から2月初めに調査を実施している。なお、新型コロナウイルス感染症に関する質

問については、2020年4月上旬に6か国(英国、米国、ドイツ、スペイン、韓国、アルゼンチン)のみに、再度アンケート調査を実施している。

³ この調査は、新型コロナウイルスの影響により、インターネットサービスの更なる普及が進んでいるとされる我が国(日本)において、フェイクニュースへの接触状況や情報の真偽を見分けるリテラシー等を把握することを目的に調査を実施したものである。期間は2021年3月18日~3月22日、調査対象は日本在住の15-69歳(男・女)N=2,000。

図表 2 オンラインニュースの真偽について心配しているか



注: 「オンラインニュースが本物が偽物であるかについて心配しています」という文章についてどう思うかに対する返答。
資料: 図表 1 と同じ。

4. 新型コロナウイルス感染症に関する情報源の信頼度と使用度

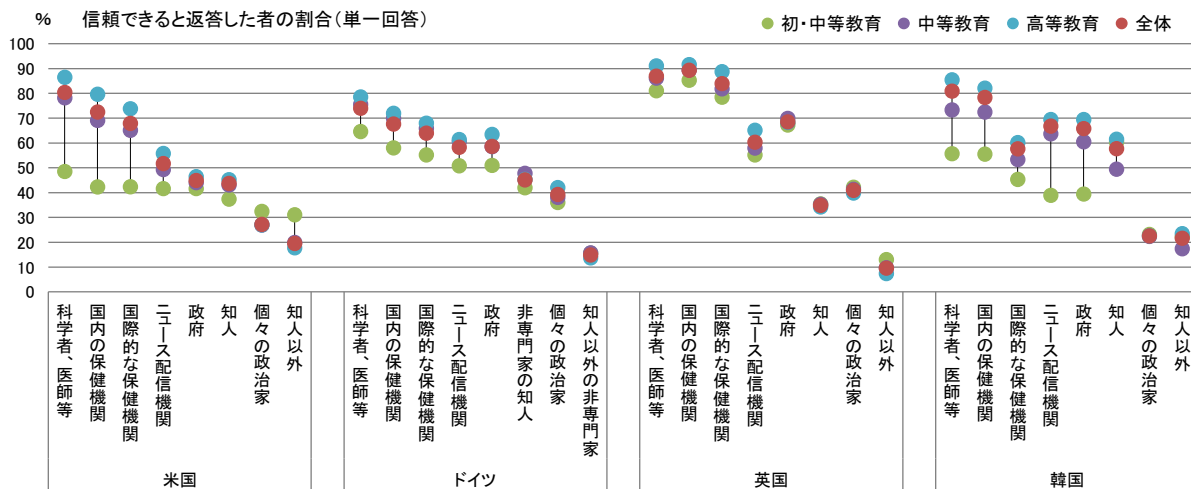
米国、ドイツ、英国、韓国について、新型コロナウイルス感染症に関するニュースに対して、その情報の信頼度（「信頼できる」と答えた者の割合）を見た（図表 3）。「全体」では多くの国で「科学者、医師等」の信頼度が高い。また、「国内の保健機関」、「国際的な保健機関」への信頼度の高い国が多い。特に英国は他国と比べて「国内の保健機関」や「国際的な保健機関」に信頼度が高い傾向にある。また、「政府」や「ニュース配信機関」については、英国、ドイツ、韓国において信頼度が高いが、米国ではいずれも低い傾向にある。最終学歴別に見ると、「高等教育」の者のほうが「初・中等教育」の者より、「科学者、医師等」、「国内の保健機関」、「国際的な保健機

関」、「ニュース配信機関」、「政府」といった比較的オフィシャルな情報源に対する信頼度が高い傾向にある。特に、英国では、どの情報源に対しても学歴による傾向に大きな差異は見られないが、米国や韓国では、「高等教育」と「初・中等教育」とで信頼度に幅が見える。ただし、この「初・中等教育」のレベルにおいては、英国の GCSE に相当する者（5～16 歳）が含まれており（図表 5）、米国や韓国とは同じ「初・中等教育」の者でも異なるため、米国や韓国の「初・中等教育」の割合が低く出ている可能性がある。

次に、新型コロナウイルス感染症に関するニュースのソースとして、その情報の使用度（各情報を使用した者の割合）を見た（図表 4）。「全体」ではいずれの国でも「ニュース配信機関」の使用度が最も高く、特に韓国が顕著である。2 番目に使用度が高い情報に注目すると、米国、ドイツでは「科学者、医師等」、英国では「政府」、韓国では「国内の保健機関」であり、その傾向は異なる。米国、ドイツ、英国では 1 番と 2 番の差が少ないのに対して、韓国では著しい。最終学歴別で見ると、いずれの国でも「高等教育」の者の方が比較的オフィシャルな情報源の使用度が高い傾向にあるのは信頼度と同様である。

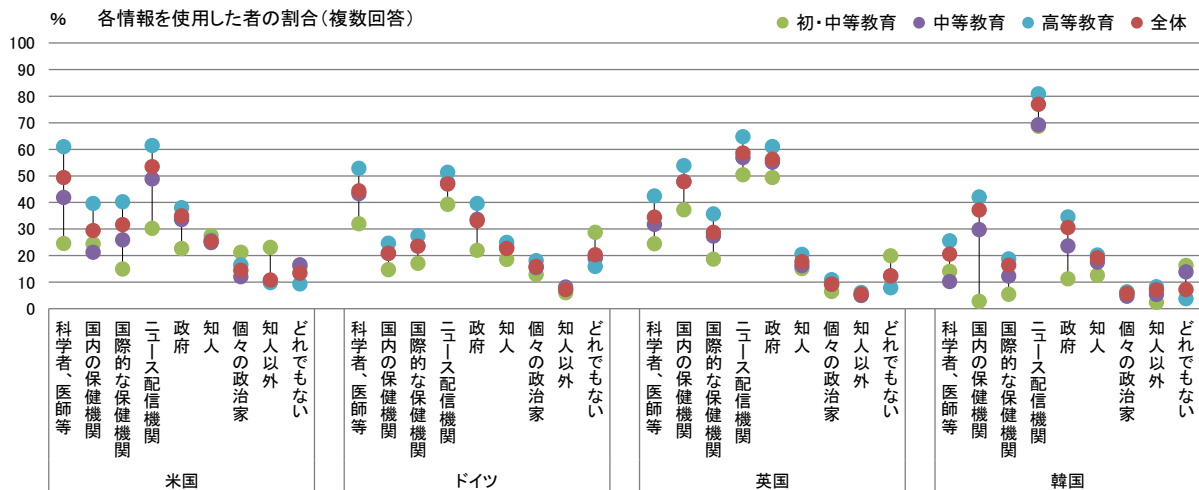
国によって信頼度・使用度の傾向は異なるが、信頼度の高い情報源が必ずしも使用度の高い情報源とは一致していない。

図表 3 新型コロナウイルス感染症に関するニュース等に対する情報源の信頼度：最終学歴別



注: 1) 「それぞれの媒体からの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関するニュースと情報はどれほど信頼できると思いますか?」に対して、以下のスケールを使用した返答。スケールは 1 から 10 段階。0 は「まったく信頼できない」、10 は「完全に信頼できる」であり、「信頼できる」は 6-10
2) 「科学者、医師等」は「科学者、医師、その他の保健の専門家」、「知人」は「個人的に知っている非専門家」、「知人以外」は「個人的に知らない非専門家」を示す。
資料: 図表 1 と同じ。

図表 4 新型コロナウイルス感染症に関するニュース等に対する情報源の使用度:最終学歴別



注:
 1) 「先週、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関するニュースや情報のソースとして、次のうちどれを使用しましたか?該当するものをすべて選択してください」に対する返答。これは、ウェブサイトやアプリに直接アクセスするか、ソーシャル・メディア、検索エンジン、ビデオサイト、メッセージングアプリを使用するか、直接会うことによって行うことができる。
 2) 「科学者、医師等」は「科学者、医師、その他の保健の専門家」、「知人」は「個人的に知っている非専門家」、「知人以外」は「個人的に知らない非専門家」を示す。
 資料: 図表 1 と同じ

図表 5 最終学歴のレベル

最終学歴	内訳	米国	ドイツ	英国	韓国
初・中等教育	正式な教育を修了していない。	23	20	55	4
	幼少期の教育	11	2	4	-
	初等教育	6	25	19	11
	中等教育(GCSEまたは同等のレベル)	21	490	471	13
中等教育	高等中等教育(Aレベルまたはバカロレア)	522	526	365	213
	高等教育、高等教育以外の教育(通常、カレッジ、貿易学校など、1~2年の職業/専門資格)	134	82	358	97
高等教育	短期間の高等教育(職業教育と訓練、非学術的な学位に向けた研究 例:看護/教育のディプロマ)	175	314	112	18
	学士号または同等のレベルの学位	245	226	540	532
	修士または同等のレベルの学位	100	279	251	86
	博士号または同等のレベルの学位	36	40	41	35
	合計(N値)	1,273	2,003	2,216	1,009

注:
 1) Reuters Institute for the Study of Journalism, “Digital News Report 2020”における最終学歴のレベル
 2) GCSE(General Certificate of Secondary Education)とは、英国の義務教育(5歳~16歳)を修了するときに受験する試験。
 3) Aレベルとは、GCE-Aレベル(General Certificate of Education, Advanced Level)であり、GCSEの後の2年間の課程後の試験(大学入試に相当)
 資料: 図表 1 と同じ。

5. 日本における新型コロナウイルス感染症に関する情報源の信頼度と使用度

日本における情報源の信頼度を見ると(図表 7)、「全体」では「政府」が最も高い。次いで「NHK」、「民間放送」も高いが「該当なし」も一定割合いる。海外の主要国では、国内、国際的な保健機関の信頼度が高いが(図表 3)、日本では「WHO や専門機関」への信頼度は相対的に低い。最終学歴別に見ると「大学院(修士・博士)」は多くの情報源で信頼度が高い傾向にあり、「中学(旧制小学)」は低い傾向にある。最終学歴が高い方と低い方との幅が目立つのは「政府」と「オンラインニュース」、「該当なし」である。なお、「中学(旧制小学)」は「該当なし」を最も多く

選んでいる。

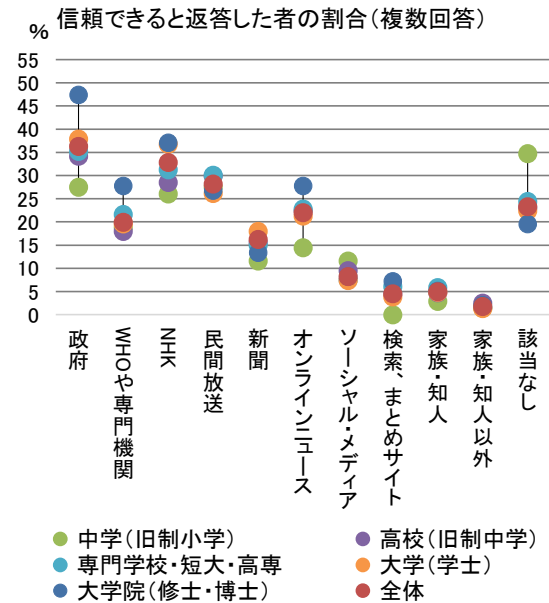
次に日本における情報源の使用度を見ると(図表 8)、「全体」では、「民間放送」、「オンラインニュース」が高い。次に「NHK」、「政府」が続き、信頼度と使用度では異なる傾向を見せている。最終学歴別に見ると、「オンラインニュース」、「NHK」、「政府」、「WHO や専門機関」では、「大学院(修士・博士)」を先頭に、最終学歴の高い者が使用している割合が高い。一方で「ソーシャル・メディア」は、「中学(旧制小学)の者」の使用度が極めて高く、他の最終学歴の者と差がある。また、「中学(旧制小学)の者は「該当なし」も高い。

日本においても、信頼度と使用度では、それぞれ高い情報源が異なる。最終学歴別で見た場合、「政府」、「NHK」といった公的な情報源については、比較的、最終学歴の高い者が信頼度、使用度する傾向にある。対して「ソーシャル・メディア」や「該当なし」については反対の傾向にある。また、「新聞」は紙面だけでなく、ウェブサイトも含まれているが、信頼度、使用度ともに低い傾向にある。

図表 6 最終学歴のレベル(日本)

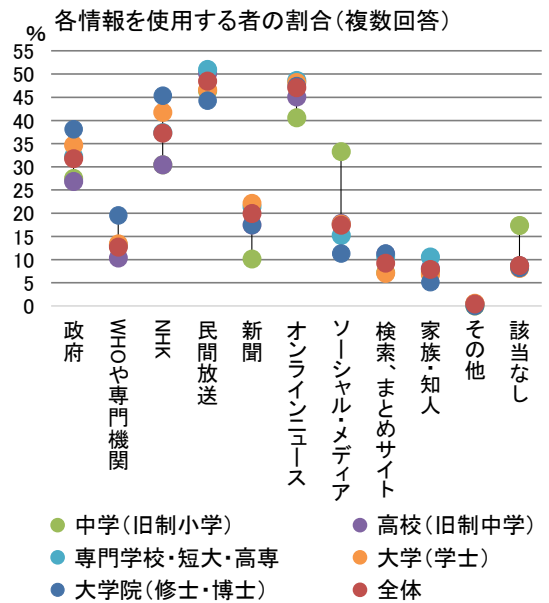
最終学歴	日本
中学(旧制小学)	69
高校(旧制中学)	588
短大・高専・専門学校	425
大学(学士)	821
大学院(修士・博士)	97
合計値(N値)	2,000

図表 7 日本における新型コロナウイルス感染症に関するニュース等に対する情報源の信頼度：最終学歴別



注：
 1) 「あなたにとって、新型コロナウイルスに関する情報について、以下の情報源やメディア・サービスをどれほど信用していますか。特に信用できる情報源やメディア・サービスをすべてお知らせください」に対する返答
 2) 「政府」は内閣官房・厚生労働省・地方自治体などのウェブサイトや情報配信である。
 3) 「民間放送」はテレビ・ラジオ・ウェブサイトなどである。
 4) 「新聞」は紙面、ウェブサイトである。
 5) 「オンラインニュース」、「ソーシャル・メディア」、「検索・まとめサイト」については、『「フェイクニュース」に関するアンケート』の詳細データを使用し、それぞれに関連する項目をまとめたものである。
 資料：図表 6 と同じ。

図表 8 日本における新型コロナウイルス感染症に関するニュース等に対する情報源の使用度：最終学歴別



注：
 1) 「あなたにとって、新型コロナウイルスに関して情報を知りたいと思った際に利用する情報源やメディア・サービスはどれですか。あてはまるものをすべてお知らせください」に対する返答。
 2) 上記以外は図表 6 と同じ。
 資料：図表 6 と同じ。

6. まとめ

新型コロナウイルス感染症に関する情報源に対する信頼度を見ると、米国、ドイツ、英国、韓国では、「科学者、医師等」、「国内の保健機関」、「国際的な保健機関」を信頼する傾向にあるが、情報をどこから入手するかといった使用度を見ると、「ニュース配信機関」が最も高い国が多く、情報源に対する信頼度と使用度は必ずしも一致していないことがわかった。また、各情報源に対して、最終学歴が高い者の方が比較的高い信頼度、使用度が高い傾向にあった。

日本においても、新型コロナウイルス感染症に関する情報源に対する信頼度と使用度が一致していなかった。また、他国と同様に、最終学歴が高い者の方が比較的高い信頼度、使用度が高い傾向にあった。ただし、他の主要国では比較的高かった「国内の保健機関」、「国際的な保健機関」の信頼度は日本においては低く、他の主要国とは異なる様相を見せた。なお、「国際的な保健機関」については、韓国において、米国、ドイツ、英国と比較すると信頼度、使用度ともに低めに出ていることから、母国語と異なる言語で情報を発信している機関にはアクセスしづらい状況にあることも示唆される。また、日本の調査では信頼度の情報源において「該当なし」と回答した者が一定割合おり、特に最終学歴が低い者において高い傾向にあった。最終学歴が低い者については、「ソーシャル・メディア」といった比較的プライベートな情報源において使用度が高かった。これは、最終学歴が低い者には、自身が信頼できる情報源に確信を持ってない者がいる可能性、使用したい情報源に対して、オフィシャルな情報源とプライベートな情報源を同レベルと考えている者がいる可能性を示唆している。

コロナ禍では、時々刻々と情報は変化し、私達の周りにあふれ、情報過多が人々を不安に陥れている可能性がある。本分析から①情報源に対する信頼度と使用度は必ずしも一致していないこと、②最終学歴によって情報源に対する信頼度と使用度の傾向が異なることが示された。この結果は、信頼度の高い情報源へのアクセスをいかに促すが、これらの不安を軽減するために有効であることを示唆している。